

第5 B分科会 研究課題「教職員の専門性に関する課題」  
 研究主題 子どもが元気・先生が元気・学校が元気になる体制づくり  
 ～教職員の協働体制づくりと働き方改革を通して～

提言者 延岡支会 延岡市立北川中学校 菊池 みどり

1 主題設定の理由

今、社会はA I など技術革新が急速に進み、急激な変化を続けている。また、経済発展や社会的課題の解決できる社会に向けて、S o c i e t y 5.0 (超スマート社会)の実現が目指されている。こうした社会の変化を乗り越え、豊かな人生を生きるために、教育の果たす役割は重要である。これまで以上に社会の変化への柔軟な対応、社会に開かれた教育課程の実現を推進していかなければならない。

また、学校の最大の環境である教職員が子どもの教育の充実や質の高い授業に取り組むことが学校の大きな使命であると考えます。

しかし、子どもたちのためなら苦勞をいとわず働いてしまう教職員も少なくなく、教育現場は厳しい労働環境となり、若者の教職員離れも見られ、教育の質の低下が懸念されつつある。

そこで、「教育の量ではなく、質」を高めていくために教育課程の精選を図り、教育効果を高めるための教職員の協働体制づくりが大切である。また、教職員の時間に対する意識改革を含め、労働生産性を考えた「タイムマネジメント」を進めていくことで働き方改革につながっていくと考える。

以上のことから、本主題を設定した。

2 研究のねらい

教頭としてリーダーシップを発揮し、働き方改革を進めながら、学校の協働体制を構築する。

3 研究の概要と成果

(1) 研究の仮説

教職員一人一人を生かした組織の改善や運営の見直しを行ったり、働き方改革を進めたりすることで、生徒・教職員が生き生きと活動する学校になるだろう。

(2) 研究の実践

① 教頭のリーダーシップ

教育課程を精選し、教育効果をあげるためのリーダーシップは教頭の重要な職務である。改善チームを編成し、アイデアやアドバイスをを行い、教職員個々の専門性を高めていくことが協働体制づくりに不可欠である。

まず、「R-AAR」を取り入れ、各段階が教職員に「見える化」して、学校運営への参画を促し、協働体制づくりを行う。

【R-AARにもとづく実践】

- ア R (リサーチ)  
 各種調査、教材研究、学校行事(体育大会や合唱コンクールなど負担になっているものをいくつか絞る。)、部活動、校内研修などを「教育効果」と「疲労感」をチェックする。
- イ A (Anticipation:見通し)  
 教育効果がなく、疲労感だけ残るものは、改善プランの見通しをもつ。
- ウ A (Action:行動)  
 具体的実践を行う。  
 (教育課程の再編成一カリキュラムマネジメント、関係機関との連携等)
- エ R (Reflection:振り返り)  
 取り組んだ実践項目の教職員意識調査を行い、振り返る。

【具体的な取組】

- リサーチのアンケート作成 (教育効果と疲労感)
- 各学校で改善プランを作成
- 改善プランで実践
- 取り組んだ実践項目の教職員意識調査

【リサーチアンケート】

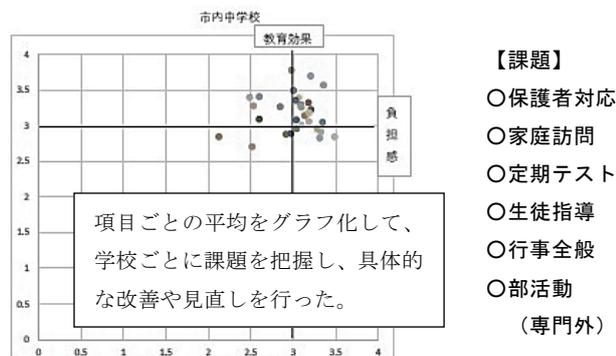
【学校校務のアンケート①】 (男・女) (20代・30代・40代・50代～)  
 このアンケートは、働きやすい職場環境にするためのものです。

- 1 働き方に関すること
- (1) 負担に感じている業務は何ですか。  
 (2) サポートが必要だと感じる業務は何ですか、番号に○をつけてください。(複数可)  
 ① 授業(教材研究・準備含む) ② 学校の課題や生活ノート点検  
 ③ 通信等(作成・印刷) ④ 校務分掌の仕事  
 ⑤ 部活動 ⑥ その他( )
- (3) 勤務時間を意識して業務を行っていますか。(はい・いいえ)  
 (4) 必要なときに年休はとれていますか。(はい・いいえ)  
 (5) 年休が取りにくいと感じることがあれば、理由を教えてください。
- 2 業務に関すること
- (1) 業務がうまく進行していないとき、相談ができますか。(はい・いいえ)  
 ○いいえと答えた方は、理由を書いてください。  
 (2) 問題が発生した場合、協力する体制はできていますか。(はい・いいえ)  
 ○いいえと答えた方は、どのような体制が不足していると思うか書いてください。  
 (3) 他人の意見を受け入れながら、業務を進めていますか。(はい・いいえ)

【学校校務のアンケート②】 (男・女) (20代・30代・40代・50代～)  
 1 下記の内容についての、教育効果・必要性や疲労感・負担感について、該当する番号を複数つづけてください。  
 【 1 まったく感じない 2 どちらかといえば感じない 3 どちらかといえば感じる 4 強く感じる 】

	教育効果	必要性	疲労感	負担感
学級組・部組	生活ノート点検	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④
	学習ノート点検	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④
	保護者対応	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④
	家庭訪問	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④
	三者面談(学校)	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④
教員担任	進路面談(学校:3年)	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④
	参観日学級懇談	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④
	定期テスト作成	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④
	定期テスト採点	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④
	課題作成	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④
生活指導	課題点検	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④
	容儀検査	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④
	生徒指導	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④
	給食指導	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④
	清掃指導	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④
学校行事	体育大会	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④
	文化祭委員会	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④
	職場体験学習	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④
	修学旅行	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④
	鑑賞教室	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④
部活動・委員会	平日練習	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④
	土日練習	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④
	生徒の人間関係の調整	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④
	保護者対応	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④
	保護者対応	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④

## 【アンケート結果】



### ② 各学校での行事の改善、運営の見直し

#### ア 定期テスト

- ・年間6回を4回に削減した。
- ・年間3回学期末テストにし、各教科で評価テスト（単元テスト）を導入した。
- ・テスト日は5時間授業で採点の時間を確保、また、テストの後の授業は教育相談にする。学級担任が相談、副担任が自習監督とした。

#### イ 家庭訪問

- ・家庭訪問は廃止して、7月末を5時間授業にして三者面談に変更した。また、4月を5時間授業にして学級事務等の時間に充てたり、学級担任は家の場所の確認を行ったりした。
- ・7月末を4時間授業にし、三者相談に変更した。勤務時間内で実施できた。

#### ウ 保護者対応

- ・電話連絡は、勤務時間内として、緊急な場合のみ時間外と土日の連絡は学校携帯への連絡とした。

#### エ 学校行事

##### 【合唱コンクール】

- ・課題曲をなくし自由曲1曲とした。無観客のため、音源をHPで聴けるよう工夫した。

##### 【体育大会】

- ・プログラムの再編成と午前中実施の内容で計画した。
- ・土曜日の半日開催で学年別のクラスマッチ形式とした。また、体育大会に向けての練習時間を削減できた。保護者は自分の子どもをじっくり見られ、好評だった。

##### 【文化発表会】

- ・合唱のみの実施計画に変更した。

#### オ 研修

- ・小中合同研修会の内容を精選し、回数を減らした。

### ③ 教職員の働き方改革の推進

#### ア 校時程の変更

- ・1校時授業前、清掃前後等の10分を分単位で見直し、部活動開始時間を早めた。
- ・朝の正門通過の時間(8:00~8:10)を遅らせた。生徒の健康管理や職員勤務時間短縮につながった。

- ・清掃は月曜と木曜の2回に設定した。帰りの会が早くなるため、教材研究の確保ができ、また、部活動を早く始められて早く終了することができる。清掃がない日のトイレ清掃は当番制で行っている。

#### イ 部活動

##### 【リフレッシュデー】

- ・顧問不在の部活動での事故防止等のため、水曜日に設定し、定時退庁とした。

##### 【活動時間】

- ・平日90分に変更し、部活終了後1時間以内に退庁する。
- ・平日2時間休日3時間で平日1日土日1日の週2日、第3日曜日は休日とする。今後、平日90分の活動へ移行していく。

#### ウ 保護者対応

- ・電話連絡は基本8:00~16:30までとし、欠席・遅刻・早退の連絡はホームページでできるようにした。

#### エ 情報発信

- ・メールやホームページによる保護者への情報提供（ペーパーレス）を行った。

#### オ その他（市の取組）

##### 【通知表】

- ・年3回を前期と後期の2回にした。

##### 【校務支援システム（C4TH）】

- ・ペーパーレス化、生徒管理、職員管理など業務の効率化につながった。

##### 【留守番電話（ボイスワープ）】

- ・各学校で設定時間を決めることができ、時間外の電話対応が軽減された。

### (3) 研究の成果

- アンケートを取り集計したことで、改善の必要な項目や行事が明確になった。
- 改善の必要な項目や行事について、企画委員会や職員会で話し合う場合には、働き方改革の視点を持たせて協議を進めていくように示すことができた。
- 行事後の反省や来年度の教育課程を見直す際に、先生方に働き方改革ということを意識した発言が増えた。
- 先生方から「働きやすい」「学校の夢を見なくなった」、生徒から「時間に余裕ができた」「学校生活に対する負担感が減った」という声が聞かれた。

### 4 今後の課題

- 学級担任と部活動顧問を兼ねている先生の勤務時間の軽減ができていない。時間内に業務ができるように、さらに時間割や校時程の工夫・改善を進めていく必要がある。
- 「働き方改革」についての理解をさらに深めるための研修などを行い、ライフワークを変える意識を高めていく必要がある。